

平成 24 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	ウイルス感染現象における宿主細胞コンピテンシーの分子基盤
領域代表者	永田 恭介（筑波大学・医学医療系・教授）
研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、ウイルスの病原性の発現は宿主の細胞・個体との攻防の結果であるとの認識を基盤に、従来のウイルス学に加えて、構造生物学、分子生物学、数理解析学を融合させることで、その病原性発現の分子基盤を明らかにしようとする意欲的な提案である。特に数理モデルの導入はユニークであり、大量に得られるデータ解析の方法や得られる成果を明確にすることを期待したい。領域代表者のリーダーシップは高く評価でき、計画研究代表者も優れた実績を有することから、有機的な連携を構築することにより十分な成果が期待される。さらに、共同研究インターンシップの導入などによる若手研究者の育成にも配慮が見られる。細胞レベルの解析にやや重点が置かれているため、公募研究で病理学者等を積極的に取り入れることで、ウイルス感染を個体やその集団レベルでも解析することが望まれるが、本研究成果は新興再興感染症対策等の社会貢献にも展開できることが期待される。</p>